

食品安全情報（微生物） No.3 / 2018（2018.01.31）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

目次

【[汎アメリカ保健機構（PAHO）](#)】

1. コレラの流行に関する更新情報（2017年12月28日付）

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. Coconut Tree ブランドの冷凍細切りココナッツに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ感染アウトブレイク（初発情報）

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

【[欧州疾病予防管理センター（ECDC）](#)、[欧州食品安全機関（EFSA）](#)】

1. 合同迅速アウトブレイク評価：乳児用調製乳に関連して複数国にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Agona*）感染アウトブレイク

【[ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）](#)】

1. グローバル化する市場における食品安全問題の解決に向けてスウェーデン食品庁と協力

【[オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）](#)】

1. オランダにおける人獣共通感染症の発生状況（2016年）

【[ProMed mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報
-

【国際機関】

- 汎アメリカ保健機構 (PAHO: Pan American Health Organization)

<http://new.paho.org/>

コレラの流行に関する更新情報 (2017年12月28日付)

Epidemiological Update: Cholera

28 December 2017

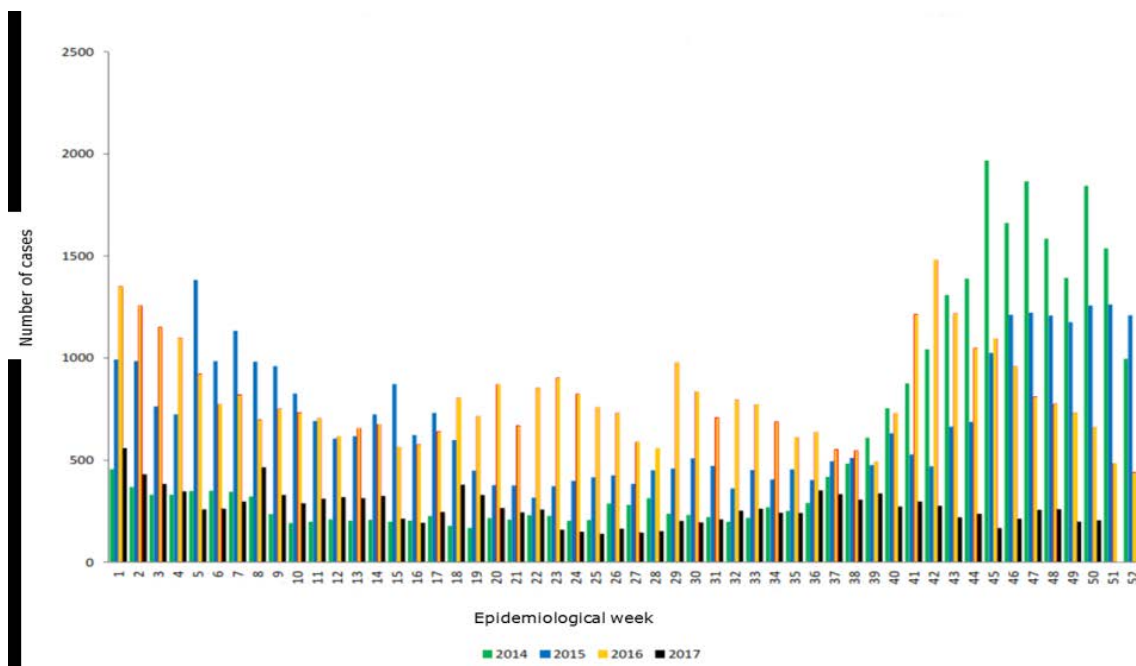
http://www.paho.org/hq/index.php?option=com_docman&task=doc_view&Itemid=270&gid=43291&lang=en

米州でのコレラの発生状況

米州では、2017年第1～50週（疫学週）にイスパニョーラ島から計13,582人のコレラ疑い患者が報告され、その99%がハイチからの報告（死亡者を含む疑い患者計13,468人、死亡者157人）であった。ドミニカ共和国およびハイチからの2017年の報告患者数はいずれも2016年より減少した。

ハイチで2017年第1～50週に報告されたコレラ患者数（13,468人）は2016年第1～52週の報告患者数（41,421人）より68%減少し、2010年10月のアウトブレイク発生以降で最も少なかった（図）。しかし、依然として週200～300人のコレラ疑い患者が報告されている。2017年第47～50週は、全10県のうち9県が疑い患者を報告したが、全体の90%がArtibonite、Centre、Nord-Ouest、およびOuestの4県からの報告であった。この期間の週あたりの平均報告患者数は直前4週間の平均報告患者数を上回っており、増加は主にNord県（36%増）およびNord-Ouest県（19%増）でみられた。患者数と同様に報告死亡者数も2017年（157人）は2016年（447人）と比べて65%減少し、2010年以降最少となった。

図：疫学週ごとの新規コレラ疑い患者数（ハイチ、2014年第1週～2017年第50週）



ドミニカ共和国では、2017年第1～50週に計119人のコレラ疑い患者が報告され、2016年第1～52週の報告患者数（1,149人）と比べ90%減少であった。また、当該期間は死亡者数も同様に85%減少であった。

下表は、2010年10月～2017年12月の各年にイスパニョーラ島で報告されたコレラ疑い患者数などを示している。

表：イスパニョーラ島のコレラ疑い患者数および死亡者数（2010年10月～2017年12月）

年	ドミニカ共和国			ハイチ		
	患者数	死亡者数	致死率(%)	患者数	死亡者数	致死率(%)
2010‡	191	0	0	179,379	3,990	2.2
2011‡	20,851	336	1.6	340,311	2,869	0.8
2012‡	7,919	68	0.8	112,076	894	0.8
2013‡	1,954	42	2.1	58,809	593	1.0
2014‡	603	11	1.8	27,753	296	1.1
2015	546	15	2.7	36,045	322	0.9
2016	1,159*	27*	2.3	41,421*	447*	1.1
2017	119**	4**	3.4	13,468***	157***	1.2

‡WHO 発行の疫学週報（Weekly Epidemiological Bulletins）のデータ

*2016年第1～52疫学週のデータ

**ドミニカ共和国公衆衛生省・疫学総局（Dominican Republic Ministry of Public Health, General Directorate of Epidemiology）による2017年第1～50疫学週のデータ

***ハイチ公衆衛生・国民省（MSPP）／疫学・検査・研究局（Haiti Ministry of Ministry of Public Health and Population / Directorate of Epidemiology, Laboratory and Research）による2017年第1～50疫学週のデータ

（食品安全情報（微生物）No.11 / 2017（2017.05.24）、No.6 / 2017（2017.03.15）、No.26 / 2016（2016.12.21）PAHO、No.23 / 2016（2016.11.09）WHO、No.20 / 2016（2016.09.28）、No.17 / 2016（2016.08.17）、No.12 / 2016（2016.06.08）、No.8 / 2016（2016.04.13）、No.2 / 2016（2016.01.20）、No.23 / 2015（2015.11.11）PAHO、No.22 / 2015（2015.10.28）WHO、No.16 / 2015（2015.08.05）、No.8 / 2015（2015.04.15）、No.4 / 2015（2015.02.18）、No.3 / 2015（2015.02.04）、No.25 / 2014（2014.12.10）、No.15 / 2014（2014.07.23）、No.7 / 2014（2014.04.02）、No.26 / 2013（2013.12.25）、No.25 / 2013（2013.12.11）PAHO、No.24 / 2013（2013.11.27）WHO、ECDC、No.23 / 2013（2013.11.13）PAHO、No.22 / 2013（2013.10.30）WHO、PAHO、No.21 / 2013（2013.10.16）PAHO、ECDC、No.19 / 2013（2013.09.18）PAHO 記事参照）

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<http://www.cdc.gov/>

Coconut Tree ブランドの冷凍細切りココナッツに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ感染アウトブレイク (初発情報)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Infections Linked to Coconut Tree Brand Frozen Shredded Coconut

January 16, 2018

<https://www.cdc.gov/salmonella/coconut-01-18/index.html>

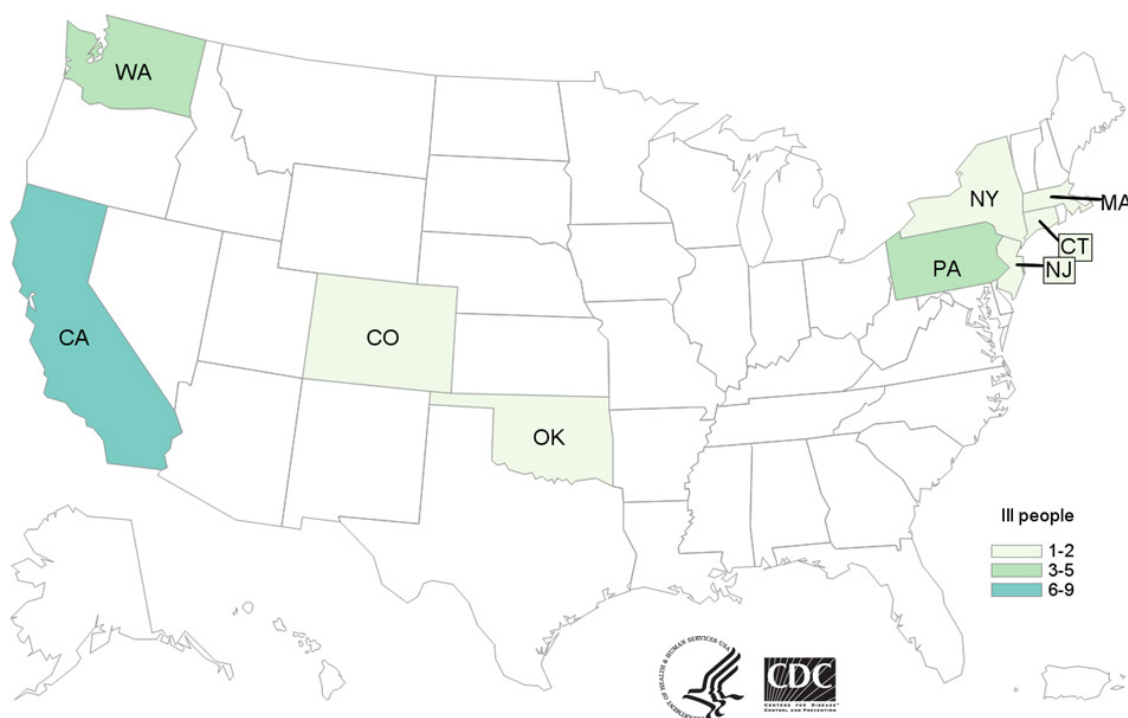
初発情報

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ感染アウトブレイクを調査している。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離されたサルモネラ株には、PFGE (パルスフィールドゲル電気泳動) 法および WGS (全ゲノムシーケンシング) 法によって DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。WGS 法による DNA フィンガープリントは PFGE 法に比べ、より詳細な情報をもたらす。

本アウトブレイクでは、2 種類のサルモネラ血清型のいずれかに感染した患者が 2018 年 1 月 12 日までに米国の 9 州から計 25 人報告されている (図)。血清型別の内訳は、*Salmonella* I 4,[5],12:b:- (24 人) および *S. Newport* (1 人) である。また、この他にカナダから *S. I* 4,[5],12:b:-アウトブレイク株感染患者が 1 人報告されている。

図：サルモネラ (*Salmonella* I 4,[5],12:b:-または *S. Newport*) アウトブレイク株感染患者数 (2018年1月12日までに報告された居住州別患者数、n=25)



WGS 解析により、本アウトブレイク患者由来の *S. I 4,[5],12:b:-* 分離株は遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイク患者の感染源が共通である可能性が高いことを示している。

患者の発症日は 2017 年 5 月 11 日～11 月 4 日である。患者の年齢範囲は 1～82 歳、年齢中央値は 19 歳で、19 人 (76%) が男性である。患者 6 人 (24%) が入院したが、死亡者は報告されていない。

アウトブレイク調査

疫学・追跡調査および検査機関での検査の結果は、Coconut Tree ブランドの冷凍細切りココナッツが本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示している。調査はまだ継続中である。

患者に対し、発症前 1 週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が行われた。その結果、聞き取りが実施された 16 人のうち 10 人 (63%) がココナッツの喫食またはその可能性を報告した。この 10 人のうち 8 人 (80%) は、冷凍細切りココナッツを含有するアジア風デザート飲料を喫飲したと報告した。

アウトブレイク調査の期間中、各州・地域の保健当局は、患者がアジア風デザート飲料を喫飲したレストランから様々な食品検体を採取した。2017 年 11 月、ニューヨーク州のレストラン 1 店舗で調理されたココナッツミルク 1 検体を検査機関が検査した結果、*S. I*

4,[5],12:b-アウトブレイク株は検出されず、*S. Newport* 株が検出された。このココナッツミルク検体には、Coconut Tree ブランドの冷凍細切りココナッツおよびその他の原材料が含まれていた。WGS 解析により、このココナッツミルク検体から分離された *S. Newport* 株は、アジア風デザート飲料を喫飲したマサチューセッツ州の患者から分離された *S. Newport* 株と遺伝学的に近縁であることが示された。

2017 年 12 月、マサチューセッツ州公衆衛生当局は、上記の患者がアジア風デザート飲料を喫飲したレストランから食品検体を採取した。その結果、冷凍細切りココナッツ 1 検体から、PulseNet データベースに登録がなくいずれの患者とも関連が見られないサルモネラ株が分離された。この検体は、Coconut Tree ブランド冷凍細切りココナッツの未開封包装品であった。この結果を受け、2018 年 1 月 3 日に Evershing International Trading 社は Coconut Tree ブランドのすべての冷凍細切りココナッツの回収を開始した。回収対象は 16 オンス（約 454 グラム）ビニール袋入りの製品である。

マサチューセッツ州公衆衛生当局は 2018 年 1 月に再度同じレストランを訪れ、同ブランドの冷凍細切りココナッツ製品を追加採取した。1 月 12 日、検査機関の検査により、この冷凍細切りココナッツ検体から *S. I 4,[5],12:b-アウトブレイク株* が検出されたことが確認された。また別の検体から、*S. Javiana*、*S. Rissen*、*S. Thompson* を含む複数の血清型のサルモネラ株が分離された。これらの検体は、2018 年 1 月 3 日以前に販売された Coconut Tree ブランド冷凍細切りココナッツの未開封包装品であった。CDC は、冷凍細切りココナッツから新たに検出されたサルモネラ分離株が患者発生に関連しているか否かを確認するため、PulseNet データベースを調査している。

本アウトブレイクに関連している冷凍細切りココナッツは、複数のレストランで供されたアジア風デザート飲料の原材料として使用された。本製品はまた、複数州 (<https://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm591335.htm> 参照) の食料品店やスーパーマーケットでも販売された。冷凍細切りココナッツは冷凍により数カ月間保存が可能のため、小売店や家庭にまだ保存されている可能性がある。CDC は、小売店、レストラン、消費者に対し、Coconut Tree ブランドの冷凍細切りココナッツの販売、提供、喫食を行わないよう注意喚起している。

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2018年1月15日～26日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

原産国不明 (オランダ経由) のピスタチオ入りハルヴァ (菓子) のサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍トウモロコシのリステリア (*L. monocytogenes*, 140 CFU/g)、ポーランド産冷蔵スモークニシンのリステリア (*L. monocytogenes*, <10 CFU/g)、ベルギー産バターのリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、キプロス産冷凍シェフタリア (ソーセージ) のサルモネラ (25g 検体陽性)、フランス産イガイの大腸菌 (930 MPN/100g)、ベルギー産冷蔵チキンバーガーのサルモネラ (25g 検体陽性)、フランス産冷凍ワイルドブルーベリーのノロウイルス (GII, 25g 検体陽性)、フランス産活カキ (*Crassostrea gigas*) のノロウイルス (GII)、スペイン産冷凍鶏肉のサルモネラ (*S. Typhimurium* 単相性 1,4,[5],12:i:-) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

モロッコ産魚粉の腸内細菌 (360・710・54・7,600・510 CFU/g)、ベルギー産冷蔵ソバのリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、スペイン産イチゴ (オランダ発送) のノロウイルス (GII, 25g 検体陽性)、メキシコ産ブラックベリーのノロウイルス (GII, 25g 検体陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

イタリア産大豆ミールのサルモネラ (*S. Senftenberg*, 25g 検体陽性)、タイ産ジャスミン米 (ドイツ経由) の昆虫 (幼虫)、ドイツ産七面鳥用配合飼料のサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍家禽肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ドイツ産菜種ミールのサルモネラ (*S. Tennessee*, 25g 検体陽性)、イタリア産有機菜種搾油粕のサルモネラ (*S. Agama*, 25g 検体陽性) など。

通関拒否通知 (Border Rejection)

ウルグアイ産冷蔵牛肉 (骨なし) の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx2+*, *eae*)、インド産ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体 1/5 陽性)、ブラジル産冷凍家禽肉製品のサルモネラ (25g 検体

陽性)、アルゼンチン産馬肉骨粉の腸内細菌 (8,900 CFU/g)、インド産皮むきゴマ種子のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、タイ産冷凍加水鶏肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Reading*、25g 検体 1/5 陽性)、ウルグアイ産冷凍牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (25g 検体陽性)、ウクライナ産ヒマワリミールのカビ、スーダン産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Hato*、25g 検体 2/5 陽性)、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉半身のサルモネラ (*S. Heidelberg*、25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉半身のサルモネラ (O4、25g 検体陽性) など。

-
- 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<http://www.ecdc.europa.eu/>

- 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

合同迅速アウトブレイク評価：乳児用調製乳に関連して複数国にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイク

Joint Rapid Outbreak Assessment: Multi-country outbreak of *Salmonella Agona* infections linked to infant formula

16 January 2018

<https://ecdc.europa.eu/sites/portal/files/documents/RRA-Salmonella%20Agona-France-Greece-Spain-16-01-2018.pdf> (合同報告書 PDF: ECDC)

<https://ecdc.europa.eu/en/publications-data/joint-rapid-outbreak-assessment-multi-country-outbreak-salmonella-agona>

技術報告書：乳児用調製乳に関連して複数国にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイク

TECHNICAL REPORT: Multi-country outbreak of *Salmonella Agona* infections linked to infant formula

23 January 2018

<http://www.efsa.europa.eu/sites/default/files/1365e.pdf> (合同報告書 PDF: EFSA)

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/1365e>

フランスで 2017 年 8 月から、乳児用調製乳 (粉乳) の喫飲に関連してサルモネラ

(*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイクが発生している。2018年1月11日までに乳児（1歳未満）の患者39人が報告されている。内訳は、フランスの37人、全ゲノムシーケンシング（WGS）解析の結果にもとづき感染が確定したスペインの1人、および、分離株の生化学的性質から本アウトブレイクに関連していると考えられるギリシャの1人である。直近の患者の発症日は2017年12月2日である。

疫学調査および食品の追跡調査から得られた結果により、フランスの1製造業者が製造した7種類のブランドの乳児用調製乳が原因食品として特定された。

仏当局は、国内で*S. Agona*感染患者が異常に増加しているという2017年12月2日付けの最初の報告を受け、関連が指摘された製造所の調査を行った。2017年12月4日、仏当局は原因食品が国外にも輸出されていたことを確認したため、食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF）に通知した。当該製造業者の調査の後、予防措置として、2017年2月15日以降に製造された全製品（乳児用調製乳以外の製品も含む）の回収または撤去が開始された。仏当局は、当該製造業者が今回とった対応措置が十分かつ適切であったかを検証中である。

2018年1月15日時点で、回収対象製品は欧州連合（EU）加盟13カ国（ベルギー、ブルガリア、キプロス、チェコ共和国、フランス、ギリシャ、アイルランド、オランダ、ルーマニア、スロベニア、スロバキア、スペイン、英国）およびEU域外の54カ国に出荷されていた。

アウトブレイク調査対象のバッチのほとんどは消費期限内の製品である。しかし、2017年12月初めから仏当局および当該製造業者が対象バッチの広範な撤去・回収、輸出禁止、市場への出荷停止を行ったため、これらの製品によるヒトの感染リスクは大幅に低下する可能性が高い。他方、新たな患者が見つかる可能性も残っている。回収対象製品が輸出されたEU域外の国には、国際食品安全当局ネットワーク（INFOSAN）を介してRASFF通知が発せられた。

欧州疾病予防管理センター（ECDC）は、調査の一環として、迅速な塩基配列決定や解析を行うことができないEU/欧州経済領域（EEA）加盟国に対し、WGSの実施を支援している。複数国からの分離株のWGS解析はパスツール研究所で行われている。

推奨される対応

乳児用調製乳を使用する際の乳幼児および保育者の感染を防ぐため、EU加盟国の当局は消費者に以下のように助言することを検討すべきである。

- ・ 本アウトブレイクに関連のある乳児用調製乳を使用しない。
- ・ 調乳の前後に手指を洗う。
- ・ 調製乳は作り置きせず、調乳後2時間以内に喫飲しなかった場合は廃棄する。

乳幼児が乳児用調製乳を喫飲後に下痢症状を呈した場合、保育者はこれを医師に相談すべきである。*S. Agona*感染患者が発生した場合は、国の保健当局に届け出る必要がある。また、本アウトブレイクの新規患者および公衆衛生調査の結果は、食品および水由来疾患

と人獣共通感染症のための欧州疫学情報共有システム (EPIS-FWD) に報告すべきである。

ECDC および欧州食品安全機関 (EFSA) は、本アウトブレイクに関連した EU 諸国および欧州諸国の食品安全および公衆衛生当局に対し、疫学、微生物学、および環境調査による結果を RASFF や欧州早期警告・対応システム (EWRS) を通じて引き続き共有するよう促す意向である。

(関連記事)

ECDC

サルモネラ (*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイク：公衆衛生リスクを低下させるために乳児用調製乳を回収

Salmonella Agona outbreak: infant formula recall to reduce risk to public health

17 Jan 2018

<https://ecdc.europa.eu/en/news-events/salmonella-agona-outbreak-infant-formula-recall-reduce-risk-public-health>

EFSA

サルモネラ (*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイクに関する更新情報

Update on *Salmonella Agona* outbreak

17 January 2018

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/180117-0>

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)

<http://www.bfr.bund.de/>

グローバル化する市場における食品安全問題の解決に向けてスウェーデン食品庁と協力

Jointly mastering the challenges of food safety in globalised markets

21.12.2017

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2017/53/jointly_mastering_the_challenges_of_food_safety_in_globalised_markets-203095.html

2017年11月28日、スウェーデン食品庁 (NFA: Livsmedelsverket) の Sohlström 長官およびドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) の Hensel 長官は、食品安全分野において今後緊密に協力していくことに合意し、NFA の本部 (スウェーデン Uppsala) で協定に署名した。協力関係は主に食品分析手法の開発・改良に焦点が絞られ、特に、食品中

の汚染物質のスクリーニング法および標準検出法の開発・改良が中心となる。Hensel 長官によると、例えば、流通のグローバル化が進んでいる水産食品については、海産毒のための、訴訟にも耐えうる簡便かつ定型的な検出法が必要である。BfR と NFA はまた、家畜での抗微生物剤耐性の出現を最小限に抑える戦略を開発し、データのグラフ化によりリスクコミュニケーションを支援することに関して協力していく予定である。

このためスウェーデンの専門家は、BfR が複雑な議論を経て作成したリスクプロファイルに高い関心を示した。このリスクプロファイルは、食品および日用品による健康リスクを非専門家でも理解可能でかつ一目でわかるようにすることを目的として作成された。NFA が開発した「リスク度計 (Risk Thermometer)」は、リスク評価者が食品に含まれる物質の相対リスクを評価、整理し、それらを消費者への影響度に応じて分類することを可能にする。今回の協定の枠内において、BfR は、リスクプロファイル中でリスクをより精密かつ有効に提示するための道具としてこの「リスク度計」がどの程度貢献し得るかを調査していく予定である。

将来的に協力活動が可能なその他のテーマについては、両機関の科学者が出席する個別の会議で決定される予定である。協力関係を今後さらに深めるため、専門家間における経験・知識の交流および個別の課題に関するワークショップが計画されている。

● オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM)

<http://www.rivm.nl/>

オランダにおける人獣共通感染症の発生状況 (2016 年)

State of Zoonotic Diseases 2016

2017-11-23

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2017-0142.pdf> (報告書本文、オランダ語)

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2017-0142.html>

人獣共通感染症は動物からヒトへと伝播し得る感染症である。オランダで発生した人獣共通感染症は、毎年、「人獣共通感染症の発生状況に関する年次報告書 (State of Zoonotic Diseases)」に記載される。この報告書には、ヒトおよび動物における届け出義務疾患の発生状況が示されている。

発生数の動向

2016 年は多くの人獣共通感染症について特記すべき変化はみられなかった。人獣共通感染症で引き続き最も大きな割合を占めたのは、食品を介して伝播する細菌であるカンピロ

バクター、リステリア (*Listeria monocytogenes*)、サルモネラ、および志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) による各種感染症であった。一方、レプトスピラ症の患者数も、2015 年のレベルより減少したが、依然として多かった。2016 年はハンタウイルス感染患者数もかなり多く、オランダでは過去に例のないソウルハンタウイルスの感染例が初めて確認された。

注目すべき事項

2016 年にはオランダでの初めてのイヌのブルセラ症が観察され、原因となった菌種は *Brucella suis* および *B. canis* であった。本報告書はまた、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)、特に家畜関連の MRSA に関する最近の傾向についても記載している。最近、家畜関連の MRSA が畜産動物との接触がないヒトでも観察されており、注目に値する。

齧歯類と人獣共通感染症

齧歯類は野生またはペットにかかわらず、レプトスピラ症、ハンタウイルス感染症、ライム病などの種々の人獣共通感染症の病原体を保有している可能性がある。これらの病原体は様々な経路でヒトに伝播する。例えば、レプトスピラ菌はラットの尿中に排出され、その尿はヒトが水遊びをする水中に流入することがある。ライム病の病原菌はマダニによる吸血を介してマウスからヒトへと伝播する。一方、ハンタウイルスはマウスが畜舎内で排尿することにより拡散し、その後、畜舎の清掃時にヒトに感染する可能性がある。

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2018 (05) (04) (03)

29, 27 & 18 January 2018

コレラ (AWD : 急性水様性下痢)

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	1/26		2017/4/27 ~2018/1/21	(疑い)1,046,674 (うち培養による確定 1,102 検体)	2,248
			2018 年第 3 週 (1/15~21)	(疑い)6,410 (迅速検査 572 検体中)	4

				101 検体陽性)	
			直前 2 週間	16,957 1,211/日	
			上記期間前の 2 週間	22,797	
イエメン	1/7		2017/4/27 ～2018/1/7	(疑い)1,029,717 (うち培養による確定 1,094 検体)	2,241
			2018 年第 1 週 (1/1～7)	(疑い)7,794 (迅速検査 628 検体中 128 検体陽性)	3
			直前 2 週間	22,797 1,628/日	
			上記期間前の 2 週間	23,434	
モザンビーク	1/26	カーボ・デル ガード州		92	0
		同州	1/24	10	
タンザニア	1/12	全国	2015/8/15 ～2018/1/7	(死亡者含む)33,421	542
		全国	2017/1/1 ～2017/12/31	(死亡者含む)4,985	99
		全国	2016/1/1 ～2016/12/31	(死亡者含む)14,547	225
		ザンジバル	2017/7/11～	0	
ソマリア	1/7	Hiraan と Banadir	1/1～7	(死亡者含む AWD) 計 90	1
		同上	2017 年第 52 週	(死亡者含む AWD) 計 53	
		Banadir		7 検体中 2 検体陽性	
コンゴ民主共和国	1/18	首都キンシャ サ市		(死亡者含む疑い) 725	32
ジンバブエ	1/20	マジョーナラ ンドウエスト Chegututu 地区		新規 3 計 21	4
		同地区の最大	2009 年	約 200	30～

		のアウトブレイク			
ケニア	1/19	メルー郡		180	6

イエメンのコレラ（10,000人当たりの罹患率が最も高い5県）

Amran (886)、Al Mahwit (843)、Al Dhale'e (644)、Hajjah (520)、Sana'a (508)

イエメンのコレラ（2017年の累積患者数）

日付	累積患者数	累積死亡者数
2017/9/8	635,752	2,062
2017/9/17	686,783	2,090
2017/9/20	704,454	2,103
2017/9/24	738,212	2,117
2017/9/27	753,098	2,122
2017/9/29	767,524	2,127
2017/10/2	777,229	2,134
2017/10/4	791,551	2,142
2017/10/6	800,626	2,151
2017/10/11	815,000	2,156
2017/10/16	841,906	2,167
2017/10/25	862,858	2,177
2017/10/29	884,368	2,184
2017/10/31	890,017	2,185
2017/11/7	910,996	2,195
2017/11/14	926,187	2,200
2017/11/28	962,536	2,219
2017/12/11	983,486	2,225
2017/12/25	1,006,920	2,230
2018/1/7	1,029,717	2,241
2018/1/21	1,046,674	2,248

（2017年8月以前のデータについては食品安全情報（微生物）No.19 / 2017を参照）

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室